

ぞにうはぎうちぎぬ、こうちぎ一つをかきねて、れいのきぬた、むやうに、せおりにして、右をうへにてうちかくべし、かくるほど御そで三寸ばかりをみせてかけよ、いたくみえぬればわろし、もし御からぎぬあらば、それをもた、みて、御ぞのうへにかくべし、御裳あらば、ふたへにをしおりて、御はかまにならべてかくべし、もしこの御いか、ほかにたつことあらば、いかさまにも、きたに御まくらをもむけ、又た、みやうをもむけてかくる事あるべからず、いかさまにもびんぎに
よるべし、

〔三〕中口傳三條一鋪設裝束事

朝覲行幸時、被儲御裝束事、

北面立廻四尺屏風四帖、敷高麗帖三枚京、其東東西可隨敷同帖一枚國、其東立衣架一基、懸御裝

束等上層北端懸巨御裝束先下懸紅御張袴其上懸白御衣三領在御、南端懸襲御衣三領無御、其

下先懸紅生御袴御宿衣被相儲之時止此襲、

中懸御衣事

衣架上階御裝束二具、下階中央御直垂略、中

衣架事

寢殿御裝束ニ並立二脚事在之、主人裝束ヲ懸コト一具アラバ一脚懸之、今一脚不撤之、二具ア

レバ懸一具、晴ノ裝束ヲバ晴ノ方可懸之、一脚ニ二具ヲ並懸事、又常ノ事也、

〔空穂物語藏開上〕かんのおと、むまれ給へる君の御ほぞのを、きり給はむとて、たゞ人はさぶら

へ、人のするわざとこそはせめ給へば、このものみぐるしのかたつぶりやとのたまへば、ついで

てなにをぬすぞ、おとゞしもなるものひとつとの給へば、さしぬきをぬぎて奉り給へば、いなや

いまひとくさとのたまへば、しろきはせのはかま、ひとかさねをぬぎて奉りて、あないのちな